

相手の理解をするために

甲陽学院中学校 2年 川島 圭太郎

中学校に入り、オンラインで海外の人たちと英語で話す機会があった。その時、相手の住んでいる街の文化について知りたくなった。しかし勿論、相手の街の文化について自分が一方的に聞くだけのはずがない。自分も、自分の街の文化について聞かれるはずだ。でもなぜか、その時の僕はそのことに気づいていなかった。

いざ会話してみると、自己紹介を終えるといきなり自分の街について聞かれた。僕は戸惑った。自分の街のことをまず聞かれるとは思っていなかったのだ。僕は大阪府に住んでいるので、伝統的な文化と言えば天神祭が頭に浮かんだ。それについて花火が上がることや、川を船が渡ることに話そうとしたが、全然話せなかった。英語力以前に自分が天神祭について全然詳しくなかったのだ。色々聞かれても“I don't know.”と答えてばかり。その後、相手の先生が住んでいる地域の文化について聞くと、すらすらとたくさんのことを話していたので、自分の住んでいるところのことさえもよく知らなかったということにとってもショックを受けた。

英会話が終わった後、母親から言われた。「あんたは日本のこともよく知らんのとちゃう？」相手の文化の理解をするためには自国の文化についても知る必要があった。

ぼくはインターネットで、天神祭について調べてみた。一番驚いたのは「銚流神事の大役を務めるのは西天満小学校の児童」という記事だった。馴染みのある小学校で、日本の行事が自分にぐっと近いものになった。それから、新聞の地域欄を熱心に読むようになった。地方にはこんなに遺跡があったのか……。他にも僕は京都が好きなので、京都の地名についてもパンフレットや本で調べ、先斗町（ぼんとちょう）の名前の由来なども知った。いかなる時でも、大阪府や関西についてのニュースや新聞の記事を見ると、反応して興味深くそれらを見るようになった。

その後、またオンラインで英会話をする機会があった。相手の先生が寺や神社の話をするのを提案してくれたので、僕はお守りのことや、祭り、縁日のことを話した。その時、「京都の藤森神社は毎年5月に駟馬神事という流鏝馬が行われることで有名だ」ということを話すと、相手の先生はとても興味深そうにしていた。その後も相手国（フィリピン）の祭りやお守りのことを聞いたりして、前の英会話の時と比べて、断然話が盛り上がった。

英会話を終えて、僕は気付いた。自分の国の細かなことを相手に伝えると、すごく喜んでもらえるものなのだ。僕は今も地域ニュースや本、地図を毎日見ている。次の英会話では、自分からは天神祭についても一度話題にして話し、相手にはフィリピンの花火大会やお祭りについて尋ねてみたいと思っている。